

“走过来”“走过去”の“过”について

高橋弥守彦

On the Use of “Guo” in “Zouguolai” “Zouguoqu”

TAKAHASHI Yasuhiko

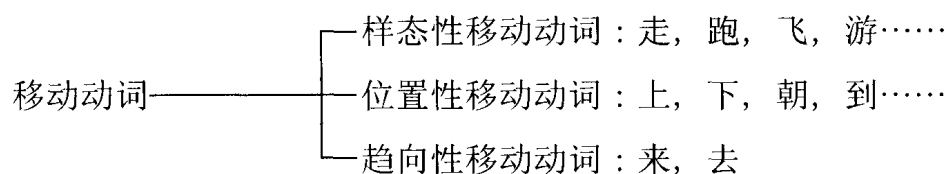
【キーワード】

ありさま移動の動詞 位置移動の動詞 趨向移動の動詞 空間名詞
連語

0. 内容提要

本文讨论“动词+过+空间词+来/去”里的动词短语“动词+过”和空间词之间的关系。笔者在本文里分析并补充说明朱德熙先生所说的处所词，将处所词叫做空间词，将空间词和它构成的短语叫做空间词语。笔者从短语论的观点来看，把移动动词分为三类〔表一〕，空间词分为五类，其中处所名词又分为六类〔表二〕。

〔表一〕 移动动词的分类



[表二] 空间词的分类

1. 专有名词：池袋，王府井……	—	1) 自然地理性名词：山，草原……
2. 处所名词：——		2) 人工修建性名词：路，校园……
3. 方位词：前，东……		3) 工作单位性名词：矿，银行……
4. 指示代词：这儿，那儿……		4) 行政区域性名词：省，县城……
5. 事物名词：车，飞机……		5) 全体处所性名词：周围，到处……
		6) 部分处所性名词：边，角落……

通过分析“动词+过+空间词+来/去”里的动词短语“动词+过”和空间词之间的关系，笔者认为它们并不可以随意搭配，它们的搭配是有语法规则可寻的。空间词可以根据它们的形状分为四类：线条性名词“路，胡同，桥，隧道”、范围性名词“公园，操场，广场”、角度性名词“坡，楼，楼梯”、平面性名词“地，天，天空”。

“动词+过+空间词+来/去”里的动词表示运动的方式，“过”表示“渡过”时，可以跟线条性名词“河，滦河”和范围性名词“水库，湖”等搭配。“过”表示“通过”的意思时，可以跟线条性名词“小路，长安街”或范围性名词“新华书店，公园”或角度性名词“坡，山”以及一些表示基准的线条性名词“头顶，肩膀”等搭配。“来/去”表示趋向性移动。

目 次

1. はじめに
2. 『八』で挙げる趋向動詞“过来”“过去”の用法
3. 「動詞+“过”+空間名詞+“来/去”」の“过”
4. おわりに

1. はじめに

『八』によれば、“过来”“过去”は動詞と趋向動詞の二類に分けられる¹⁾。“过来”“过去”が動詞となる場合は、単独で述語となる場合であり、趋向動詞

となる場合は動詞のあとに用いられ、補語となる場合である。たとえば、次のように用いられる。

- (1) 车过来了，上车吧。(『八』 p. 141、動詞)
車が来たよ、乗りましょう。(同上)
- (2) 门口刚过去一辆车。(『八』 p. 141、動詞)
たった今、戸口を一台の車が通り過ぎて行った。(同上)
- (3) 护士端过来一杯水。(『八』 p. 142、趨向動詞)
看護婦は水を一杯持って来た。(同上)
- (4) 天上飞过去几架飞机。(『八』 p. 142、趨向動詞)
飛行機が何機か空を飛んで行った。(同上)

これとは別に、高橋（2002）では移動を表す動詞連語“走进来”を各単語“走，进，来”の有する語彙的な意味から、ありさま移動の動詞“走”、位置移動の動詞“进”、趨向移動の動詞“来”の三類に分けている²⁾。この三類の移動動詞は、単独でも組み合わせても移動体の移動を表せ、全部で7類に分けられる³⁾。移動体は文構造によって、主体“车（例1），护士（例3）”と客体“一辆车（例2），几架飞机（例4）”とに分けられ、文中でどちらが移動するのかを明らかにしている。また高橋（2004a,b）では、『八』で動詞と趨向動詞とに分ける“过”を高橋（2002）で言う“进”と同様、“过”の有する語彙的な意味から位置移動の動詞とみなしている⁴⁾。さらに高橋（2004a,b）は、『八』でいう次のような動詞と趨向動詞との“过”を分析し、その用法が基本的に一致している、と指摘している。

- (5) 过了这条街就到了。(『八』 p. 138、動詞)
この通りをぬければすぐに着くよ。(同上)
この通りを渡るとすぐです。(筆者訳) / この通りを過ぎればすぐです。(筆者訳)
- (6) 飞机飞过了秦岭。(『八』 p. 139、趨向動詞)
飛行機が秦嶺山脈を通過した。(同上)

高橋（2004a,b）によれば、例(5)の“过了这条街”の“过”は文中に現れ

ていない主体の通過を表し、例(6)の“飞过了秦岭”の“过”も主体“飞机”の通過を表し、連語の表す意味から、どちらの連語も「通過のむすびつき」を作る、としている。また、連語論の観点から“过”の客体は形状別に分類する線条性的名詞・範囲性的名詞・角度性的名詞の三類であることを明らかにし、“这条街”の“街”と“秦岭”とは線条性的名詞に属す、と指摘している。

既述のように高橋(2002)では上記の観点から、移動を表す動詞連語“走进来”をありさま移動の動詞“走”、位置移動の動詞“进”、趨向移動の動詞“来”の三類に分け、さらに、高橋(2004a, b)は例(5)の“过了这条街”の“过”と例(6)の“飞过了秦岭”の“过”は文中における構造は違うものの、「むすびつき」の機能は同じなので、いずれも位置移動の動詞としている。この点から“过来”“过去”も『八』のように動詞と趨向動詞とに分けるのではなく、筆者は位置移動の動詞“过”と趨向移動の動詞“来, 去”に分けるほうがより言語事実に即しているのではないかと考えている。本稿では『八』で言うところの趨向動詞“过来”“过去”をとりあげ、以下に筆者の観点を述べる。

2. 『八』で挙げる趨向動詞“过来”と“过去”の用法

既述のように、『八』では“过来”と“过去”とを動詞と趨向動詞とに分けている。動詞“过来”には二類の意味分類があり⁵⁾、動詞“过去”には五類の意味分類があり⁶⁾、趨向動詞“过来, 过去”にはそれぞれ三類の意味分類がある⁷⁾。まず、『八』で挙げる趨向動詞“过来”を用いている例文から見ていこう。

2. 1. 趨向動詞としての“过来”

補語として用いられる“过来”と“过去”とを、『八』では趨向動詞とみなしている。本節では『八』で言う趨向動詞“过来”を分析してみる。まず、『八』の分類による趨向動詞“过来”の意味分類(p. 142~143)についてみてみよう。

(7) 一群孩子跑过来。(『八』p. 142)

- 一団の子供たちが駆け寄ってきた。(同上)
- (8) 迎面窜过来一匹脱了缰的马。(『八』 p. 142)
真正面からタズナを切った馬が一頭駆けて来た。(同上)
- (9) 护士端过来一杯水。(『八』 p. 142)
看護婦は水を一杯持って来た。(同上)
- (10) 整整一夜翻过来又翻过去, 总是睡不着。(『八』 p. 142)
まるひと晩輾転反側してどうしても眠れなかった。(同上)
- (11) 他醒过来了。(『八』 p. 142)
彼は意識を取り戻した。(同上)
- (12) 医生把他救过来了。(『八』 p. 142)
医者が彼を救った。(同上)
- (13) 这么大的林场, 你三天怎么跑得过来。(『八』 p. 143)
これほど大きな造林地を、三日でどうして見て回れるんだ。(同上)
- (14) 你给我这么多有趣的书, 我都看不过来了。(『八』 p. 143)
君がこんなにたくさんのおもしろい本をくれて、もう読みきれないよ。(同上)
- (15) 汽车开过桥来。(『八』 p. 143)
自動車が橋を渡って来る。(同上)
- (16) 孩子们跳过沟来。(『八』 p. 143)
子供たちは溝を跳び越えた。(同上)

上記の例文は、趨向動詞“过来”を用いる『八』の例文である。『八』による趨向動詞“过来”の意味分類 (p. 142~143) は、次の三類に分かれる。

[表3] 『八』による趨向動詞“过来”の意味分類

i. 動詞+“过来” [+名詞]: 例(7)~(12)

名詞はふつう動作の対象、主体のときもある。

- a: 人または事物が、動作の結果ある場所から外の場所へ移動することを表す。例(7)(8)(9)

b : 物体が動作の結果、方向を変えることを表す。名詞は必ず“过”と“来”の間に置く。動詞はふつう“翻, 转, 扭, 弯, 掉, 回, 侧”などのいくつかの動詞に限られる。例(10)

c : “过来”は本来の正常な、あるいはより良好な状態に戻ることを表す。ふつう動作の対象は“把”を用いて前に出す。例(11)(12)

ii. 動詞+“得/不”+“过来”: 例(13)(14)

「十分にやり終えることができる/できない」ことを表す。一般に時間・空間・数量などの条件に関連して言う。ふつう動作の対象は前に出す。例(13)(14)

iii. 動詞+“过”+名詞(場所)+“来”: 例(15)(16)

人または事物が動作につれて、ある場所を経過することを表す。
例(15)(16)

例(7)から(12)までは、たとえば動詞連語“跑过来”などの構造なので、「動詞+趨向動詞“过来”」の構造とみなしてよいであろうが、例(13)の“跑得过来”、(14)の“看不过来”はいわゆる動詞連語の可能式と不可能式⁸⁾とであるが、これがはたして動詞連語の可能式と不可能式と言えるか、疑問である。また、例(15)(16)は趨向動詞“过来”の間に空間名詞が用いられているので、この構造のなかの“过来”が趨向動詞と言えるかも疑問である。筆者としては、“过来”はやはり動詞連語とみなすべきであるが、例(7)から(12)の動詞連語“跑过来”のような構造であれば、動詞連語と言ってよいであろうが、それ以外は動詞連語とみなすべきではないと考えているので、例(13)から(16)の構造の文について検討してみよう。また、『八』では例(7)から(12)が属す「i. 動詞+“过来”[+名詞]」の中にも次のような文を挙げている。これらの文についても検討してみよう。

(17) 他猛扑了过去, 从敌人手里把枪夺了过来。(『八』 p. 142)

彼は猛然と跳びかかり、敵の手から銃を奪った。(同上)

(18) 喂, 扔根绳子过来! (『八』 p. 142)

おい、なわをほうってくれ。(同上)

(19) 流动红旗下次我们一定夺得过来。(『八』 p. 142)

ペナントの赤旗は、次回はぼくたちが必ずいただくぞ。(同上)

(20) 他转过脸来，我才认出他是谁。(『八』 p. 142)

彼が振り返ったので、はじめて誰だかわかった。(同上)

(21) 爬到山顶，我们都累得喘不过气来。(『八』 p. 142)

山頂に登りついたときには全員疲れて息もつけないほどであった。

(同上)

『八』に挙げられている例(7)から(21)までの「動詞+趨向動詞“过来”」を『八』の説に基づき構造的に見れば、次のように分類できるであろう。

[表4] 『八』に挙げられている「動詞+趨向動詞“过来”」の構造

- i. “跑过来”：動詞+趨向動詞“过来” (例7, 10, 11, 12)
- ii. “端过来一杯水”：動詞+趨向動詞“过来”+名詞 (例8, 9)
- iii. “夺了过来”：動詞+“了”+趨向動詞“过来” (例17)
- iv. “扔根绳子过来”：動詞+名詞+趨向動詞“过来” (例18)
- v. “跑得过来”：動詞+“得/不”+趨向動詞“过来” (例13, 14, 19)
- vi. “开过桥来”：動詞+趨向動詞“过”+名詞+趨向動詞“来” (例15, 16, 20)
- vii. “喘不过气来”：動詞+“得/不”+趨向動詞“过”+名詞+趨向動詞“来” (例21)

実例の中にもこのような構造からなる文があるので、これらの構造に該当すると思われる例文を次に挙げてみよう。また、『八』では挙げられていない趨向動詞“过来”に関する構造があれば、それも挙げてみよう。

(22) 他看见了。便喊：“快走过来。”(8-5-93)

それを見た父が、大声で言いました。「早く、こっちへおいで」
(8-5-92)

- (23) 又凶：“还不走过来。”(8-5-93)
またどなりました。「まだもどってこないのか」(8-5-92)
- (24) 老教授坐过来，微笑着问他干什么活，他说养木耳。(4-10-100)
教授が席を移ってきて、どんな仕事をしているのかと、にこやかに聞いた。男は、きくらげの栽培だといった。(同上)
- (25) 接着，又惊喜地围过来几张陌生的脸，都笑着。(8-6-93)
いくつかの見知らぬ顔が、驚きと喜びをたたえながら、次々と集まってきた。(8-6-92~93)
- (26) 男女老少围了过来。(6-6-96)
老若男女が取り囲んできた。(同上)
- (27) “打哪来？”老村长倒背双手也走了过来，和颜悦色地问。(6-6-96)
「どこから来たんじゃ？」年老いた村長も、両手を後ろに組みながらやって来て、にこやかな顔でたずねた。(同上)
- (28) ……手臂又横了过来：“暖！暖！不许动！”(3-3-89)
……、かれは手を横に伸ばした。「おい、おい、動いちゃいかん」(同上)
- (29) ……，她那乳白色的西装套裙是那样地光彩夺目，远远的像一团雪，像一片云，轻盈地飘了过来。(4-4-98)
……、ひときわ目立つ白っぽいスーツが、遠くから、雪の塊りか、ひとひらの雲のように、軽やかに近づいてきた。(同上)
- (30) 他扔了一个苹果过来，我接住了。(《刘》p. 43)
彼がリンゴをなげてよこしたので、私は受けとった。(筆者訳)
- (31) 蒋毛头抬头一望，见父亲跟兄弟摇着船过来了，船上满是生姜。(6-9-97)
頭をもたげて見ると、おやじと兄弟が船に揺られてこっちにやってくる。船はショウガでいっぱいだ。(同上)
- (32) 妻也没睡稳，转过脸来问：“见谁？”(4-5-101)
妻も寝入っていなかったらしく、顔をこちらに向けた。「誰に？」(同上)

(33) 她惊讶地侧过头来，看到一个戴眼镜的年青小伙子正对她微笑，笑得很拘谨但却动人。(6-8-96)

いぶかって顔を横にやってみたら、めがねをかけた若い男性が彼女に向かって微笑んでいる。(同上)

(34) “递过我的背心来……”(6-4-96)

「わたしのベスト、取ってくれないかしら……」(同上)

例(22)(23)(24)は[表4]の(i)に属し、例(25)は(ii)に属し、例(26)から(29)までは(iii)に属し、例(32)(33)(34)は(vi)に属す。実例の中ではこの四類の構造がよく使われる、ということの意味するのであろう。例(30)(31)は[表4]にない構造である。このタイプも[表4]に加えなければならないだろう。そうすると、いわゆる「動詞+趨向動詞“过来”」の動詞連語は全部で八つの構造に分けられる。この連語構造の分類は『八』の分け方であり、『八』ではこれらを動詞連語に他の語(単語と連語)が用いられているだけであり、連語の構造は変わらないとみなしているようである。筆者はこれとは別の考え方を持っているので、それを次に紹介しよう。

(35) 他下班回来了。(作例)

彼は仕事を終えて戻ってきた。(筆者訳)

(36) 他们走到学校来了。(作例)

彼らは学校に歩いてきた。(筆者訳)

筆者の分類によれば、例(35)(36)の“回”と“到”とはいずれも“过”と同様に位置移動の動詞である⁹⁾。筆者の分析に従えば、例(35)は“他下班了。”と“他回来了。”との二つの文に、例(36)は“他们走到学校了。”と“他们来了。”との二つの文に分けられるので、例(35)(36)は連述文である。また、これまで“走进来”“围过来”などの動詞連語として存在する動詞連語を分析してきたので、動補連語に客語が加わる構造という『八』に代表されるような説が出たのであろうが、例(35)(36)の“下回来”“走到来”という動詞連語は本来存在しないので、例(35)(36)は連述文に分析せざるを得ないであろう¹⁰⁾。また、「動詞+名詞」は一つの出来事を表すので、[表4]の(iv)や(vi)に

属するような例文中の構造「動詞＋名詞＋“过来”」「動詞＋趨向動詞“过”＋名詞＋趨向動詞“来”」などを一つの連語と分析するには無理があり、例(35)(36)と同様に二つの出来事を表しているので、これらも異なる構造の連述文とみなすほうが言語事実にかなっているであろう。例(30)は[表5]の(iv)の名詞の前に動態助詞の“了”を加えたもう一つの別な構造「動詞＋“了”＋名詞＋“过来”」である。これは兼語文なのでやはり特殊文型の一つである。例(21)は[表5]の(vi)の「動詞＋趨向動詞」を不可能式にしたもう一つの別な構造(vii)である。[表5]の(vi)を連述文と認める以上、(vii)も連述文と認めなければならないであろう。(vii)から名詞をとると、(v)になる。(vii)を連述文と認めるのであれば、(v)も連述文と認めざるを得ないであろう。

ここで連述文と兼語文との違いについて明らかにしておこう¹¹⁾。まず両者の例文を見てみよう。

(37) 他坐飞机来北京。(作例)

彼は飛行機で北京に来る。(筆者訳)

(38) 我请你吃饭。(作例)

私が食事をおごります。

例(37)(38)の文は単語レベルでは同じ構造「代詞(主体)＋動詞＋客体＋動詞＋名詞(客体)」であるが、文レベルでは構造が異なる。例(37)は“他坐飞机。”“他来北京。”の二つの文に分析できるので連述文である。例(38)は“我请你。”“我吃饭。”とは分析できなく、“我请你。”“你吃饭。”としか分析できないので兼語文である。このように分析すれば、例(35)の“他下班回来了。”は既述のように“他下班了。”と“他回来了。”とに分析できるので連述文であり、例(30)の“他扔了一个苹果过来，我接住了。”の“他扔了一个苹果过来。”「彼がリンゴをなげてよこした」だけを分析すれば、“他”が“过来”するのではなく、“苹果”が“过来”するので、文構造としては“他扔了一个苹果。”“一个苹果过来。”と分析できる。このように分析できるのであれば、例(30)は兼語文と言えるであろう。ただし、“一个苹果过来。”は兼語文の中では成立するが、これだけでは文として成立しない。

以上の例文に見られる筆者の上記の分析によれば、『八』でいういわゆる「動詞+趨向動詞“过来”」は次のように図表化されるであろう。

[表5]「動詞+“过来”」の構造

- i. “跑过来”：ありさま（移動）の動詞+位置移動の動詞“过”+趨向移動の動詞“来”（例7, 10, 11, 12, 22, 23, 24）
- ii. “端过来一杯水”：ありさま（移動）の動詞+位置移動の動詞“过”+趨向移動の動詞“来”+名詞/名詞連語（例8, 9, 25,）
- iii. “夺了过来”：ありさま（移動）の動詞+“了/着”+位置移動の動詞“过”+趨向移動の動詞“来”（例17, 26, 27, 28, 29）
- iv. “扔根绳子过来”：ありさま（移動）の動詞+名詞/名詞連語+位置移動の動詞“过”+趨向移動の動詞“来”：（例18, 35）
- v. “扔了一个苹果过来”：ありさま（移動）の動詞+“了/着”+名詞/名詞連語+位置移動の動詞“过”+趨向動詞“来”（例30, 31）
- vi. “跑得过来”：ありさま（移動）移動の動詞+“得/不”+位置移動の動詞“过”+趨向動詞“来”（例13, 14, 19）
- vii. “开过桥来”：ありさま（移動）の動詞+位置移動の動詞“过”+名詞+趨向移動の動詞“来”（例15, 16, 20, 32, 33, 34, 36）
- viii. “喘不过气来”：ありさま（移動）の動詞+“得/不”+位置移動の動詞“过”+名詞+趨向移動の動詞“来”（例21）

「動詞+“过来”」の動詞は主体や客体のありさま、またはありさまによる移動を表し、“过”は位置の移動を表し、“来”は視点のある趨向移動を表し、全体で主体や客体の移動を表している。この三つの動詞はそれぞれ主体や客体の移動を分業して表しているだけなので、「動詞+“过来”」の後ろに名詞（ii）をとることもでき、動詞の後ろに動態助詞（iii）、名詞/名詞連語（iv）、「動態助詞+名詞/名詞連語」（v）を挿入することもでき、可能式や不可能式（vi）を作ることもしできる。また、「動詞+“过来”」の“过来”のあいだに名

詞 (vii) を挿入することもでき、さらに「動詞+“过”」の可能式と不可能式 (viii) も作れる。これらの言語現象から見れば、「動詞+“过来”」の“过来”は趨向動詞とみなすよりも“过来”を含む「動詞+“过来”」全体を「ありさま(移動)の動詞+位置移動の動詞+趨向移動の動詞」からなる動詞連語とみなすほうが言語事実にかなっていると言えるであろう。

2.2. 趨向動詞としての“过去”

次に『八』の分類による趨向動詞“过去”の意味分類 (p. 142~143) についてみてみよう。

- (39) 你跑过来跑过去干什么? (『八』 p. 142)
君は何で行ったり来たり走り回っているんだ。(同上)
- (40) 天上飞过去几架飞机。(『八』 p. 142)
飛行機が何機か空を飛んで行った。(同上)
- (41) 整整一夜翻过来又翻过去, 总是睡不着。(『八』 p. 142)
まるひと晩輾転反側してどうしても眠れなかった。(同上)
- (42) 病人昏迷过去了。(『八』 p. 143)
病人は意識を失った。(同上)
- (43) 他死过去了。(『八』 p. 143)
彼は死んだ。(同上)
- (44) 我现在记性不好, 什么书都是看过去就忘。(『八』 p. 143)
最近物覚えが悪くて、どんな本でも読んですぐ忘れてしまう。(同上)
- (45) 你把一个重要数据忽略过去了。(『八』 p. 143)
君は重要なデータをひとつ見過ごしてしまった。(同上)
- (46) 这山再高, 能高得过喜马拉雅山去吗? (『八』 p. 143)
この山がどんなに高くても、ヒマラヤより高いはずはないだろう。(同上)
- (47) 这天再冷, 也冷不过三九天去。(『八』 p. 143)
いくら寒いといっても、真冬ほど寒いことはないだろう。(同上)

(48) 他把小车推过桥去了。(『八』 p. 143)

彼は手押し車を押して橋を渡って行った。(同上)

(49) 你游得过这条河去吗？(『八』 p. 143)

君はこの河を泳いで渡れるかね。(同上)

上掲の例文は、趨向動詞“过去”を用いている『八』に挙げられた例文である。『八』による趨向動詞“过去”の意味分類 (p. 142~143) では、次の三類に分かれる。

[表6] 『八』による趨向動詞“过去”の意味分類

i. 動詞+“过去” [+名詞] : 例(39)~(45)

名詞はふつう動作の対象、主体のときもある。

a : 人または事物が、動作の結果ある場所から外の場所へ移動することを表す。例(39)(40)

b : 物体が動作の結果、方向を変えることを表す。名詞は必ず“过”と“去”の間に置く。動詞はふつう“翻, 转, 扭, 弯, 掉, 回, 侧”などのいくつかの動詞に限られる。例(41)

c : 正常な状態を離れることを表す。好ましくない意味に用いることが多い。ふつうには“晕, 昏迷, 死”などいくつかの動詞に限る。動詞と“过去”の間には“得, 不”を挿入できない。例(42)(43)

d : ことからの経過・動作の完了を表す。例(44)(45)

ii. 形容詞+“得/不”+“过”+名詞+“去” : 例(46)(47)

iii. 動詞+“过”+名詞(場所)+“去” : 例(48)(49)

例(39)から(45)までは、たとえば動詞連語“跑过去”などの構造なので、「動詞+趨向動詞“过去”」の構造とみなしてもよいであろうが、例(46)の“高得过喜马拉雅山去”、(49)の“游得过这条河去”、例(47)の“冷不过三九天去”は、動詞連語に客語が用いられた可能式と不可能式と一般に言われているが、これがはたしていわゆる動詞連語に客語の用いられた可能式と不可能式と言え

るのか疑問である。例(48)も趨向動詞“過去”の間に空間名詞が用いられているので、“過去”が趨向動詞と言えるのか疑問である。この点については例(46)(47)(49)も同様である。筆者としては、“过来”と同様、“过去”もやはり動詞連語とみなすべきであり、他の単語や連語を加えて別な構造になっていれば、動詞連語とみなすべきではないだろうと考えるので、例(46)から(49)の構造の文についてはさらに検討してみる必要があるようである。また、『八』では例(39)から(45)が属する「i. 動詞+“过去”[+名詞]」の中にも次のような文がある。これらの文についても検討してみよう。

(50) 战士们把手榴弹扔了过去。(『八』 p. 142)

兵士たちは手榴弾を投げつけた。(同上)

(51) 河再宽，我们也游得过去。(『八』 p. 142)

河幅がもっと広くても、泳いでわたれるよ。(同上)

(52) 他让我回过身去，看着前边。(『八』 p. 142)

彼は私に向きを変えさせて前方を見させた。(同上)

(53) 这管子弯得过去弯不过去？(『八』 p. 142)

この管はまがるかい。(同上)

(54) 他想瞒我，怎么瞒得过去。(『八』 p. 143)

彼は私をごまかそうとしているが、どうしてごまかし通せるものか。(同上)

『八』に挙げられている例(39)から(54)までの「動詞+趨向動詞“過去”」を『八』の説に基づき構造的に見れば、次のように分類できるであろう。

[表7] 『八』に挙げられている「動詞+趨向動詞“過去”」の構造

i. “跑过去”：動詞+趨向動詞“過去” (例39, 41~45)

ii. “飞过去几架飞机”：動詞+趨向動詞“過去”+名詞/名詞連語 (例40)

iii. “扔了过去”：動詞+“了”+趨向動詞“過去” (例50)

iv. “游得过去”：動詞+“得/不”+趨向動詞“過去” (例51, 53, 54)

- v. “推过桥去”：動詞＋趨向動詞“过”＋名詞／名詞連語＋趨向動詞“去”（例48, 52）
- vi. “高得过喜马拉雅山去”：動詞＋“得／不”＋趨向動詞“过”＋名詞／名詞連語＋趨向動詞“去”（例46, 47, 49）

実例の中にもこのような構造からなる文があるので、これらの構造に該当すると思われる例文を次に挙げてみよう。また、『八』では挙げられていない“过来”に関する構造があれば、それも挙げてみよう。

- (55) 萍惊叫一声，挣脱我的手朝那个盲人跑过去。（10-12-85）
「危ない！止まって」と叫んで萍が駆け出した。（10-12-84～85）
- (56) 李秘书像个孩子似地跳着嚷着，奔过去捡猎获物。（12-4-9）
李秘書は子供のように飛び上がり、大声で叫びながら走って行って獲物を拾いあげた。（12-4-15）
- (57) 他走进会场，一眼看到了市郊焦庄养牛专业户老陈在第三排就坐，就挤过去和他坐个并排。（12-4-98～99）
会場へ入るとすぐに市の郊外にある焦村の酪農家、陳が三列目に座っているのが見えたので、人ごみをかきわけて彼の隣に並んで座った。（12-4-103）
- (58) 他把双手背过去，风雨衣的扣子全开着，被风吹得掀起一个角。（4-4-101）
処長が後ろ手にすると、ダスターコートの前がはだけて、折からの風にコートの裾が舞いあがった。（4-4-102）
- (59) 于是，他便双脚同时发力，使自己那辆除了铃不响其余部位全响的自行车如飞毛腿导弹一般，带着类似千军万马的声响朝那歹徒射了过去——（10-6-87）
彼は両足で力いっぱいペダルを踏むと、おんぼろ自転車をキイキイきしませながら、まるで韋駄天ミサイルのように、すさまじい音をたてて突っ込んでいった。（10-6-86）

- (60) 我走了过去，把手轻轻地放在她肩上。(12-2-61)
わたしは歩みより、手を軽く彼女の肩においた。(12-2-65)
- (61) 樱子说她可以撑伞过去帮我寄信。(12-2-20)
桜子は、傘を差して向こうへ渡り、手紙を出してきてくれると言った。(12-2-24)
- (62) 我忽然眼睛里潮湿起来，赶忙扭过头去。(11-5-87)
僕は目頭が熱くなってきたのを感じ、慌ててあらぬ方に目をそらした。(同上)
- (63) 她忙转过脸去，生怕常平看见，可常平却老早都看在眼里。(4-6-100~101)
顔をそむけて、常平にさとられないようにしたが、常平はとつくに気がついて、すべて見てしまった。(4-6-100)
- (64) 她非常平静，极为普通地向他笑了一下，走过之后，甚至没有再回过头去看他一眼。(10-11-85)
……、そのときの彼女は落ち着き払っていた。極めてふつうに彼に向かってほほ笑み、通り過ぎてから振り返りもしなかった。(10-11-84)

例(55)～(58)は[表7]の(i)に属し、例(59)(60)は(iii)に属し、例(62)(63)(64)は(vi)に属す。実例の中ではこの三類の構造がよく使われる、ということの意味するであろう。例(61)は[表7]にない構造である。このタイプも[表7]に加えなければならないだろう。そうすると、いわゆる「動詞+趨向動詞“过来”」の動補連語は全部で七つの構造に分けられる。この連語構造の分類は『八』の分け方であり、『八』ではこれらを動補連語に他の語(単語と連語)が用いられているだけであり、連語の構造は変わらないとみなしているようである。筆者はこれとは別の考え方を持っているので、それを次に紹介しよう。

これまでは“走进去”“跑过去”などの動詞連語として存在する動詞連語を分析してきたので、動補連語に客語が加わる構造という『八』に代表されるよ

うな説が出たのであろう。連語論の観点から見れば、「動詞＋名詞」は一つの出来事を表すので、[表7]の(v)に属するような例文中の構造「動詞＋趨向動詞“过”＋名詞＋趨向動詞“来”」を一つの連語と分析するのには無理がある。これらも例(35)(36)と同様に二つの出来事を表しているので、連述文とみなすほうが言語事実にかなっているであろう。例(50)は[表7]の(iii)に属す文である。[表7]の(iii)は(i)に動態助詞の“了”を加えたもう一つの別な構造「動詞＋“了”＋“过去”」である。これも連述文なのでやはり特殊文型の一つである。例(51)は[表7]の(i)の「動詞＋趨向動詞」を不可能式にしたもう一つの別な構造(iv)である。[表7]の(v)を連述文と認める以上、(vi)も連述文と認めなければならないであろう。(vi)から名詞をとると、(iv)になる。(vi)を連述文と認めるのであれば、(iv)も連述文と認めざるを得ないであろう。例(61)の“樱子说她可以撑伞过去帮寄信。”の“撑伞过去”「傘を差して向こうへ渡り」だけを分析すれば、“她”が“撑伞”し、“过去”するので、連述式である。

このほか、“过来”を用いている例(30)(31)に倣えば、“过去”を用いても次のような文を作れるであろう。これまでの文分析に倣えば、例(65)は兼語文であり、例(66)は連述文である。

(65) 他扔了一个苹果过去，我朋友接住了。(作例)

彼がリンゴを投げると、友人がうけとった。(筆者訳)

(66) 他们摇着船过去了。(作例)

彼らは船を漕いで行った。(筆者訳)

以上の例文に見られる筆者の上記の分析によれば、『八』でいういわゆる「動詞＋趨向動詞“过来”」は次のように図表化されるであろう。

[表8] 「動詞＋“过去”」の構造

- i. “跑过去”：ありさま（移動）の動詞＋位置移動の動詞“过”＋趨向移動の動詞“去”（例39, 41～45, 55～58）
- ii. “飞过去几架飞机”：ありさま（移動）の動詞＋位置移動の動詞“过”

- +趨向移動の動詞“去”+名詞/名詞連語(例40)
- iii. “撐傘过去”：ありさま(移動)の動詞+名詞/名詞連語+位置移動の動詞“过”+趨向移動の動詞“去”(例61)
 - iv. 扔了一个苹果过去：ありさま(移動)の動詞+動態助詞“了/着”+名詞/名詞連語+位置移動の動詞“过”+趨向移動の動詞“去”(例65, 66)
 - v. “扔了过去”：ありさま(移動)の動詞+“了”+位置移動の動詞“过”+趨向移動の動詞“去”(例50, 59, 60)
 - vi. “游得过去”：ありさま(移動)の動詞+“得/不”+位置移動の動詞“过”+趨向移動の動詞“去”(例51, 53, 54)
 - vii. “推过桥去”：ありさま(移動)の動詞+位置移動の動詞“过”+名詞/名詞連語+趨向移動の動詞“去”(例48, 52, 62, 63, 64)
 - viii. “高得过喜马拉雅山去”：形容詞+“得/不”+位置移動の動詞“过”+名詞/名詞連語+趨向移動の動詞“去”(例46, 47, 49)

「動詞+“过去”」の動詞は主体や客体のありさま、またはありさまによる移動を表し、“过”は位置の移動を表し、“去”は視点のある趨向移動を表し、全体で主体や客体の移動を表している。この三つの動詞はそれぞれ主体や客体の移動を分業して表しているだけなので、「動詞+“过去”」の後ろに名詞(ii)をとることもでき、動詞の後ろに名詞(iii)、「動態助詞+名詞/名詞連語」(iv)、動態助詞(v)を挿入することもでき、可能式や不可能式(vi)を作ることができる。また、「動詞+“过去”」の“过去”の間に名詞(vii)を挿入することもでき、さらに「動詞+“过”」の可能式と不可能式(viii)も作れる。これらの言語現象から見れば、「動詞+“过去”」の“过去”は趨向動詞とみなすよりも“过去”を含む「動詞+“过去”」全体を「ありさま(移動)の動詞+位置移動の動詞+趨向移動の動詞」からなる動詞連語とみなすほうが言語事実になっっている、と言えるであろう。

3. 「動詞＋“过”＋空間名詞＋“来／去”」の“过”

上掲の例文のなかに、例(15)(16)(48)にみられるような「動詞＋“过”＋空間名詞＋“来／去”」がある。この構造はその表す意味から「通過のむすびつき」(動詞＋“过”＋空間名詞)と「空間的な移りのむすびつき」(“来／去”)とが合体した連合体といえるであろう。

ところで、高橋(2004c)の分析によれば、「“过”＋空間語＋来／去」のなかの位置移動の動詞“过”の後ろには線条性的名詞・範囲性的名詞・角度性的名詞の三類が用いられている。「“过”＋空間語＋来／去」構造の前に動詞を用いる本構造「動詞＋“过”＋空間名詞＋“来／去”」の空間名詞にはどのような形状の名詞が用いられるのであろうか。本構造を用いている例(15)(48)の空間名詞“桥”は線条性的名詞であり、例(16)の空間名詞“沟”も線条性的名詞である。それでは、「動詞＋“过”＋空間名詞＋“来／去”」構造のなかの空間名詞として、線条性的名詞の他にどのような空間名詞が用いられるのであろうか、作例によって検証してみよう。

(67) 他们穿过了马路 / 长安街 / 和平街来 / 去我家了。(作例)

彼らは道路／長安街／和平街を渡って我が家に来た／行った。(筆者訳)

※「“穿”＋“过”」の動詞“穿”は運動の方式を表し、“过”が「(その場所を)渡る／横切る」の意味であれば、客体には主体“他们”の渡る対象としての線条性的名詞“马路／河／长安街／和平街”が用いられる。“穿过”の客体としては、主体の渡る対象でない空間名詞“银行／县城／角落／东南／飞机”などを用いることができない。

(68) 他们走过了独木桥 / 吊桥 / 人行横道 / 天桥来 / 去了。(作例)

彼らは歩いて丸木橋／吊り橋／横断歩道／歩道橋を渡ってきた／行った。(筆者訳)

※「“走”＋“过”」の動詞“走”は運動の方式を表し、“过”が「(その場所を)渡る」の意味であれば、客体には主体の渡る対象と

しての線条性の名詞“独木桥 / 吊桥 / 人行横道 / 天桥”が用いられる。“走过”の客体としては、主体“他们”の渡る対象でない空間名詞“银行 / 县城 / 角落 / 东南 / 飞机”などを用いることができない。

- (69) 他们游过了河 / 黄河 / 长江来 / 去了。(作例)

彼らは泳いで河 / 黄河 / 长江を渡ってきた / 行った。(筆者訳)

※「“游” + “过”」の動詞“游”は運動の方式を表し、“过”が「(その場所を) 渡る / 横切る」の意味であれば、客体には主体“他们”の渡る対象としての線条性の名詞“河 / 黄河 / 长江”が用いられる。“游过”の客体としては、主体の渡る対象でない空間名詞“银行 / 县城 / 角落 / 东南 / 飞机”などを用いることができない。

- (70) 他们游过了水库 / 湖 / 海湾来 / 去了。(作例)

彼らは泳いでダム / 湖 / 湾を渡ってきた / 行った。(筆者訳)

※「“游” + “过”」の動詞“游”は運動の方式を表し、“过”が「(その場所を) 渡る」の意味であれば、客体には主体が泳いで渡る対象としての範囲性の名詞“水库 / 湖 / 海”が用いられる。“游过”の客体としては、主体“他们”が船で渡る対象でない空間名詞“长安街 / 银行 / 县城 / 角落 / 东南 / 飞机”などを用いることができない。

- (71) 他们穿过了长安街 / 金鱼胡同来 / 去了。(作例)

彼らは长安街 / 金鱼横丁を通ってきた / 行った。(筆者訳)

※「“穿” + “过”」の動詞“穿”は運動の方式を表し、“过”が「(その場所を) 通る」の意味であれば、客体には線条性の名詞“长安街 / 金鱼胡同”が用いられる。“穿过”の客体には、主体“他们”の「通る」対象でない空間名詞“马路 / 银行 / 角落 / 东南 / 飞机”などを用いることができない。

- (72) 他们走过了公园 / 草地 / 县城 / 草原来 / 去了。(作例)

彼らは歩いて公園 / 原っぱ / 县城 / 草原を渡ってきた / 行った。

(筆者訳)

※「走」＋「过」の動詞「走」は運動の方式を表し、「过」が「(その場所を) 通る」の意味であれば、客体には範囲性名詞「公園 / 草地 / 县城 / 草原」が用いられる。「走过」の客体としては、主体「他们」の「通る」対象でない空間名詞「马路 / 银行 / 角落 / 东南 / 飞机」などを用いることができない。

(73) 他们走过了海关 / 剪票口 / 盘查哨所来 / 去了。(作例)

彼らは税関 / 改札口 / 検問所を通ってきた / 行った。(筆者訳)

※「走」＋「过」の動詞「走」は運動の方式を表し、「过」が「(その場所を) 通る」の意味であれば、客体には範囲性名詞「海关 / 剪票口 / 盘查哨所」が用いられる。「走过」の客体としては、主体「他们」の「通る」対象でない空間名詞「马路 / 银行 / 角落 / 东南 / 飞机」などを用いることができない。

(74) 他们爬过了山 / 坡 / 山冈来 / 去了。(作例)

彼らは山 / 坂 / 丘を越えてきた / 行った。(筆者訳)

※「爬」＋「过」の動詞「爬」は運動の方式を表し、「过」が「(その場所を) 超える」の意味であれば、客体には主体「我们」の越える対象である角度性名詞「山 / 坡 / 山冈」が用いられる。「爬过」の客体としては、主体の越える対象でない空間名詞「天安寺 / 长安街 / 马路 / 银行 / 角落 / 东南 / 飞机」などを用いることができない。

(75) 他们穿过了国境 / 边界 / 边境线来 / 去了。(作例)

彼らは国境 / 境界 / 国境線を越えてきた / 行った。(筆者訳)

※「穿」＋「过」の動詞「穿」は運動の方式を表し、「过」が「(その場所を) 越える」の意味であれば、客体には主体「他们」の越えられる線条性名詞「国境 / 边界 / 边境线」が用いられる。「穿过」の客体としては、主体がその場所を越える対象でない空間名詞「天安寺 / 长安街 / 马路 / 银行 / 角落 / 东南 / 飞机」や空間名

詞連語“这条街”などを用いることができない。

- (76) 他们走过了银行 / 天安寺来 / 去我们学校了。(作例)

彼らは銀行／天安寺を乗り越して私たちの学校にきた／行った。

(筆者訳)

※「“走” + “过”」の動詞“走”は運動の方式を表し、“过”が「(その前を) 乗り越す」の意味であれば、客体には範囲性の名詞“銀行 / 天安寺”が用いられる。“走过”の客体としては、主体“他们”がその前を乗り越す対象とならない空間名詞“马路 / 角落 / 东南 / 飞机”を用いることができない。

- (77) 飞机飞过了长江 / 秦岭来 / 去了。(作例)

飛行機が長江／秦嶺山脈を通過してきた／行った。(筆者訳)

※「“飞” + “过”」の動詞“飞”は運動の方式を表し、“过”が「(その上を) 通過する」の意味であれば、客体には主体“飞机”の越えられる線条性の名詞“长江 / 秦岭”が用いられる。“飞过”の客体としては、主体の越える対象となれない空間名詞“天安寺 / 长安街 / 马路 / 银行 / 角落 / 东南 / 飞机”などを用いることができない。

- (78) 飞机飞过了泰山 / 武夷山来 / 去了。(作例)

飛行機が泰山／武夷山を通過してきた／行った。(筆者訳)

※「“飞” + “过”」の動詞“飞”は運動の方式を表し、“过”が「(その上を) 通過する」の意味であれば、客体には主体“飞机”の越える範囲性の名詞“泰山 / 武夷山”が用いられる。“飞过”の客体としては、主体の越える対象となれない空間名詞“天安寺 / 长安街 / 马路 / 银行 / 角落 / 东南 / 飞机”などを用いることができない。

上記の分析から「動詞 + “过” + 空間名詞 + “来 / 去”」構造における位置移動の動詞“过”は、空間名詞を形状別に分類する線条性の名詞“马路 / 河 / 长安街 / 吊桥 / 人行横道 / 天桥 / 国境 / 边境线”・範囲性の名詞“县城 / 草原

／銀行／天安寺”・角度性の名詞“山／坡／山冈”の三類と必然的に組み合わせると言える。

中国語では「動詞＋“过”＋空間名詞＋“来／去”」のなかの位置移動の動詞“过”は、線条性の名詞“马路／河／长安街／吊桥／人行横道／天桥”・範囲性の名詞“县城／草原／銀行／天安寺”・角度性の名詞“山／坡／山冈”、およびこの三類の作る空間名詞連語“这条马路，那个县城，这座山”¹²⁾と組み合わせるが、これらの空間名詞や空間名詞連語以外とは組み合わせられない、と言える。たとえば次の例である。

(79) *他们走过我家门前来／去了。——▶他们从我家门前走过来／过去了。(作例)

彼らは我が家の前を通ってきた／行った。(筆者訳)

(80) *她们走过他身边来／去了。——▶她们从他身边走过来／过去了。(作例)

彼女たちは彼のそばを通ってきた／行った。(筆者訳)

(81) *飞机飞过了我头上／去了。——▶飞机从我头上飞过去了。(作例)
飛行機が頭上を通り過ぎていった。(筆者訳)

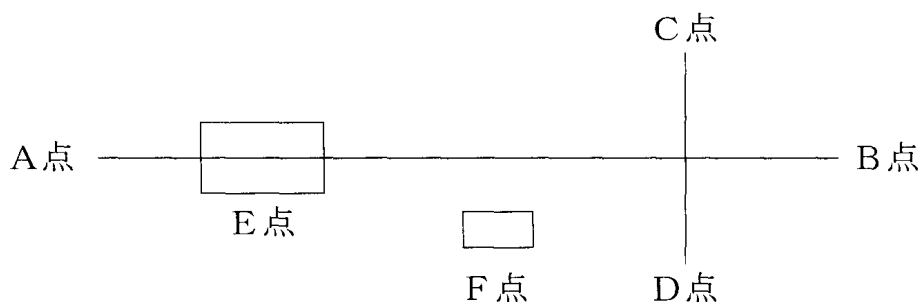
日本語であれば、例(79)の「我が家の前を通ってきた／行った」、例(80)の「彼のそばを通ってきた／行った」、例(81)の「頭上を通り過ぎていった」は、名詞の格が発達しているので、ヲ格の名詞連語と通過を意味する動詞とが結びつくが、中国語の位置移動の動詞“过”を用いて、“他们走过我家门前来／去了。”“她们走过他身边来／去了。”“飞机飞过了我头上去了。”と言えないのは、中国語の位置移動の動詞“过”が形状別にみる上掲の三類の場所を表す空間名詞または空間名詞連語に属さない“我家门前”“他身边”“我头上”と組み合わせられないからである。この点からも中国語では動詞と名詞との組み合わせは動詞が名詞を選ぶという文法上のルールが存在すると言えるであろう。しかし、例(79)の「我が家の前を通ってきた／行った」、例(80)の「彼のそばを通ってきた／行った」、例(81)の「頭上を通り過ぎていった」は、現実として存在するので、中国語でもこの現実を表現しなければならない。これを中国語では例

(79) (80) (81)のように客体を動詞の前に前置させる介詞という文法的な手段を用いて表現する。ここに介詞の必要性がでてくると言える。

なお、筆者の言う〔表二〕の空間名詞の分類に基づけば、“我家门前 / 我头上” “他身边” は前者が方位名詞連語であり、後者が部分場所名詞連語である。

上掲の例文における「動詞 + “过” + 空間名詞 + “来 / 去”」のうちの「動詞 + “过” + 空間名詞」のくみあわせは連語論における意味的な関係付けの面からみれば、運動の主体が、ある空間を通過する意味を示しているので、「通過のむすびつき」と言えるであろう。「通過のむすびつき」にみられる上記のありさま移動の動詞は通過の方式を示し、位置移動の動詞“过”は通過を示す。位置移動の動詞“过”と形状別に分類する三類の空間名詞との関係は、次のように整理できる。

〔表 9〕「動詞 + “过”」の“过”と空間名詞との関係



- i. “过”と通過するところ（C点からD点へ）との結びつき：例(67) (68) (69)
- ii. “过”と通過するところ（A点からB点へ）との結びつき：例(70) (71) (72)
- iii. “过”と通過するところ（E点）との結びつき：例(73) (74)
- iv. “过”と通過するところ（C点とD点で示すところ）との結びつき：例(75)
- v. “过”と通過するところ（F点の前）との結びつき：例(76)
- vi. “过”と通過するところ（F点の上）との結びつき：例(77) (78)

上記の分析から、位置移動の動詞“过”を用いて作る六類の通過の結びつきは主体の通過する場所がどのような場所なのかによって、位置移動の動詞“过”が日本語では「(その場所を) 渡る、横切る」(例67, 68, 69, 70)・「(その場所を) 通る」(例71, 72, 73)・「(その場所を) 越える」(例74, 75)・「(その前を) 通り越す」(例76)・「(その上を) 通過する」(例77, 78)の意味と対応する、とみなしてよいであろう。

本構造「動詞＋“过”＋空間名詞＋“来／去”」に見られる「通過のむすびつき」の中国語と日本語との対応関係は、「“过”＋空間名詞＋“来／去”」構造と同様であり、「“过”＋空間名詞」と「動詞＋“过”＋空間名詞」とで作る「通過のむすびつき」とは若干異なる。本構造「動詞＋“过”＋空間名詞＋“来／去”」と「“过”＋空間名詞＋“来／去”」は、「通過のむすびつき」を作る「動詞＋“过”＋空間名詞」と「“过”＋空間名詞」とが、その後の“来”「空間的な移りのむすびつき」に影響を及ぼすために、位置移動の動詞“过”と空間名詞との関係が六類であるにもかかわらず、それに対応する日本語は五類である。これは「“过”＋空間名詞」と「動詞＋“过”＋空間名詞」とでは「ii. “过”と通過するところ(A点からB点へ)との結びつき」が「(その場所を) 抜ける」の意味であったが、「“过”＋空間名詞＋“来／去”」では「ii. “过”と通過するところ(A点からB点へ)との結びつき」が「(その場所を) 通る」としか対応しないためである。このほか、「v. “过”と通過するところ(F点の前)との結びつき」が「(その前を) 過ぎる」から「(その前を) 通り越す」に変わっている。

3. おわりに

既述のように『八』では“过来”“过去”を文中の位置により動詞と趨向動詞とに分けている。文中で動詞“过来”“过去”は述語となり、趨向動詞“过来”“过去”の前には必ず動詞があり、趨向動詞は補語となる。筆者は上掲の例文における“过来”“过去”の用いられている言語事実により、“过来”“过去”を動詞と趨向動詞とに分けるのではなく、位置移動の動詞“过”と趨向移

動の動詞“来，去”とに分け、動詞連語とみなしている。動詞連語なので、その後ろに名詞を用いることができ、その間に動態助詞“了，着”や名詞を用いることができ、また、可能式と不可能式とが作れる。上掲の例文の分析結果によって、“走过来”を用いて作例し、それを検証してみよう。

(82) 他们走过来了。 彼らはやってきた。

(83) 他们走得过来。 彼らは歩いてやってくることができる。

(84) 他们走路过来了。 彼らは歩いてやってきた。

(85) 他们走路过得来。 彼らは歩いてやってくることができる。

(86) 南边儿走过来了三个人。 南から人が3人歩いてやってきた。

(87) 他们走过独木桥来了。 彼らは丸木橋を歩いて渡ってきた。

(88) 他们走得过独木桥来。 彼らは丸木橋を渡って来ることができる。

(89) 他们走得过独木桥。 彼らは丸木橋を渡ることができる。

(90) 他们来了。 彼らはきた。

“走过来”は単独（例82）で用いることもできるし、“走过来”の“走过”を可能式（例83）にすることもできる。また、“走过来”の“过来”の前（例84）と後ろ（例86）とに名詞または名詞連語を用いることもできる。例（84）の“走路过来”の“过来”は可能式（例85）にすることもできる。そして、“走过来”の“过来”の間に名詞（例87）を入れることもでき、さらに“走过”の可能式も作れ（例88）、その文を二つの文（例89，90）に分けることもできる。

以上の点から、“过来”“过去”は『八』のように文中の位置とその用いられている構造とにより、動詞と趨向動詞とに分けるのではなく、各移動動詞の有する基本的な意味から“走过来”“走过去”は動詞連語であり、ありさま移動の動詞“走”と位置移動の動詞“过”と趨向移動の動詞“来，去”とに分けるほうが言語事実にかなっていると言えるであろう。

中国語では、「動詞＋“过”＋空間名詞＋“来／去”」のなかの位置移動の動詞“过”は、線条性の名詞“马路／河／长安街／吊桥／人行横道／天桥”・範圍性的名詞“县城／草原／银行／天安寺”・角度性的名詞“山／坡／山冈”、およびこの三類で作る空間名詞連語と組み合わせるが、これらの空間名詞や空間

名詞連語以外とは組み合わせられない。しかし、これらの空間名詞や空間名詞連語との組み合わせのほかにも、他の組み合わせが現実には存在するので、それらのくみあわせは介詞が担うことになる（例80, 81）。

中国語と日本語との対応関係では、位置移動の動詞“过”で作る六類の通過の結びつきは、主体の通過する場所がどのような場所なのかによって、位置移動の動詞“过”が日本語では次の五類と対応する。

[表10]「動詞+“过”+空間名詞」の“过”と対応する日本語

- i. 「(その場所を) 渡る、横切る」(例67, 68, 69, 70)
- ii. 「(その場所を) 通る」(例71, 72, 73)
- iii. 「(その場所を) 越える」(例74, 75)
- iv. 「(その前を) 通り越す」(例76)
- v. 「(その上を) 通過する」(例77, 78)

以上の点から、『八』で言う動詞“过来”“过去”を位置移動の動詞“过”と趨向移動の動詞“来, 去”とに分けるように¹³⁾『八』で言う趨向動詞“过来”“过去”は各移動動詞の有する基本的な意味から位置移動の動詞“过”と趨向移動の動詞“来, 去”とに分けるほうが言語事実にかなっていると言えるであろう。

1) 呂叔湘 (1992) によれば、“过来”“过去”には動詞と趨向動詞との二類がある (『八』 p. 141~143)。

2) 高橋弥守彦 (2002) によれば、移動を表す動詞連語“走进来”は有様移動の動詞“走”、位置移動の動詞“进”、趨向移動の動詞“来”の三類に分けられる。(「高」 p. 53)

3) 高橋弥守彦 (2001) では三類の移動動詞を用いて移動を表す場合、七類の方

式があるとしているが、高橋弥守彦（2003）では“到，向”などの位置移動の動詞を加えることにより、移動の方式を10類に分けている。

- 4) 高橋弥守彦（2004a, b）では、「“过” + 空間名詞」と「動詞 + “过” + 空間名詞」の“过”と空間名詞との関係を分析することにより、二つの連語の中に用いられる“过”は基本的に一致しているとして、“过”の有する語彙的な意味から“过”を位置移動の動詞と名付けている。
- 5) 呂叔湘（1992）によれば、動詞“过来”には二類の用法がある。（p. 141）
- 6) 呂叔湘（1992）によれば、趨向動詞“过来”には五類の用法がある。（p. 141～142）
- 7) 呂叔湘（1992）によれば、趨向動詞“过来，过去”には三類の用法がある。（p. 141～142）
- 8) 一般に“跑得过来”“跑不过来”可能補語と言われているが、筆者はこれを“跑过来”の可能式と不可能式とに分けている。筆者は次のような文を可能補語としている。

这个东西吃得。 これは食べられる。
这件衣服穿不得。 この服は着られない。
- 9) 高橋弥守彦（2003）では、位置移動の動詞を他の二類の移動動詞と組み合わせることができるかどうかにより、構造の面から次の二類に分けている。
 - i. “上，下，进，出，回，过，开，起，近”
 - ii. “朝，向，往，到，在，离”
- 10) 高橋弥守彦（2003）に“下回来”“走到来”が連語として存在しないことをすでに指摘している（p. 164）。
- 11) 高橋弥守彦（2003）では連述文と兼語文とを明確に区分できていなかったもので、二つの文を混同しているものもある。ただし、二類の文があるという指摘は間違いではないであろう。
- 12) 「動詞 + “过” + 空間名詞 + 来 / 去」のなかの位置移動の動詞“过”は、空間名詞を形状からみる線条性・名詞・範囲性・名詞・角度性・名詞の三類と組み合わせたり、「通過のむすびつき」を作る。この三類の空間名詞が中心と

なる連語も、この三類の空間名詞と同じように、位置移動の動詞“过”と組み合わさり、次のように「通過のむすびつき」を作る。

他们跑过这条马路来 / 去了。(線條性の名詞連語)

彼らはこの大通りを走って渡って来た / 行った。

他们走过这个公园来 / 去了。(範圍性の名詞連語)

彼らは歩いてこの公園を通って来た / 行った。

他们走过这座山来 / 去了。(角度性の名詞連語)

彼らはこの山を歩いて越えて来た / 行った。

¹³⁾ 高橋弥守彦 (2004c) では、『八』で言う動詞“过来”“过去”を位置移動の動詞“过”と趨向移動の動詞“来，去”とに分けている。

資料と例文

- 1) 水仙 (1984) 水上勉著 柯森耀译注 上海译文出版社 1984. 10
- 2) 菜穗子 (1984) 堀辰雄著 吴大有译注 上海译文出版社 1984. 12
- 3) ショートショート (1988) 程枫等著 人民中国杂志社 1988. 1~12
- 4) ショートショート (1989) 李玲等著 人民中国杂志社 1989. 1~12
- 5) ショートショート (1990) 李敬寅等著 人民中国杂志社 1990. 1~12
- 6) ショートショート (1991) 杨华敏等著 人民中国杂志社 1991. 1~12
- 7) ショートショート (1993) 赵冬等著 人民中国杂志社 1993. 1~12
- 8) ショートショート (1994) 凌鼎年等著 人民中国杂志社 1994. 1~12
- 9) ショートショート (1995) 航鹰等著 人民中国杂志社 1995. 1~12
- 10) ショートショート (1996) 关继尧等著 人民中国杂志社 1996. 1~12
- 11) ショートショート (1997) 林如求等著 人民中国杂志社 1997. 1~12
- 12) 中国語学講読シリーズ①~⑥ (1991) 刘家林等著 柯森耀译 外文出版社
1991
- 13) 中国当代优秀童话选上・下 (1991) 柯玉生编 新雷出版社 1991. 11
- 14) 那山・那人・那狗 (1993) 彭见明著 中川正行、木村英樹、沈国威、小野秀樹 白帝社 2001. 10. 1

15) 文芸副刊・中国語の環第40号～48号 敖友余等著 竹島毅等整理 1997. 6
～1999. 6

16) 中日対訳コーナー・北京週報 2000. 1. 4～2000. 12. 12

17) 贾平凹小说新作集 (2001) 贾平凹 中国青年出版社 2001. 8

※例文の末尾に (12-2-24) と記してあれば、上記資料12の二冊目の24頁の意。
上記に挙げた資料以外の引用例であれば、やはり例文末尾の括弧の中に資料名の略称と頁数が挙げてある。出典の記していない例文は、筆者が作例し、大東文化大学非常勤講師の鄭曉青・王学群・趙昕・鄭曙光の4先生および大東文化大学大学院外国語学研究科中国語専攻の温琳さんが手を加えて下さったものである。また、中日対訳研究会月例会で発表した際には多くの先生方から貴重な意見を頂いた。ここに、あわせて感謝の意を表す。

主要参考文献と略称

1. 荒川清秀 (2003) 『一步すすんだ中国語文法』, 大修館書店 『清』
2. 荒屋勸 (1995) 『中国語常用動詞例解辞典』, 光生館 『荒』
3. 大内田三郎 (2000) 『中国語文法参考書』, 駿河台出版社 『大』
4. 奥田靖雄 (1976) 「言語の単位としての連語」『言葉の研究・序説』 (1985) 言語学研究会編に所収 むぎ書房
5. 郭春貴 (2001) 『誤用から学ぶ中国語』, 白帝社 『郭』
6. 簡能道明 (1955) 『増補字源』, 角川書店 『簡』
7. 言語学研究会編 (1983) 『日本語文法・連語論 (資料編)』 むぎ書房
8. 高橋弥守彦 (1995) 「場所語について」『大東文化大学紀要』第33号 大東文化大学 「高1」
9. 高橋弥守彦 (2001) 「動補連語“走出来”について」『外国語学研究』第2号 大東文化大学大学院外国語学研究科 「高2」
10. 高橋弥守彦 (2002) 「移動を表す動補連語“走进来”について」『外国語学研究』第3号 大東文化大学大学院外国語学研究科 「高2」
11. 高橋弥守彦 (2003) 「移動を表す動補連語“走回来”について」『語学教育

研究論叢』第20号 大東文化大学語学教育研究所 「高3」

12. 高橋弥守彦 (2004a) 「“过”+空間名詞の“过”について」 日中対照言語学会1月例会口頭発表資料
13. 高橋弥守彦 (2004b) 「動詞+“过”+空間名詞の“过”について」 日中対照言語学会4月例会口頭発表資料
14. 高橋弥守彦 (2004c) 「動詞“过来”，“过去”と空間名詞との関係について」 日中対照言語学会7月例会口頭発表資料
15. 方美麗 (2002a) 「〈行く先の結びつき〉～日中対照分析～」『外国語教育論集』第24号 筑波大学 「方1」
16. 方美麗 (2002b) 「連語論〈移動動詞と空間詞との関係〉—中国語の視点から」『日本語科学11』国立国語研究所 「方2」
17. 朴鐘漢 (2000) 「認知文法による現代中国語多義語の研究」『中央大学論集』第21号 中央大学 「朴」
18. 吉田賢抗編 (1984) 『新釈漢和辞典』新訂版 明治書院 『吉』
19. 李臨定著／宮田一郎訳 (1993) 『中国語文法概論』, 光生館 『李』
20. 呂叔湘主編／牛島徳次監訳・菱沼透訳 (1992) 『中国語用例辞典』, 東方書店 『八』
21. 刘月华主編 (1998) 《趋向补语通释》, 北京语言文化大学出版社 《刘》